

●全国学力学習状況調査(小6)

課題の見られた問題の概要	結果
新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える	41.2%
目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	48.5%
文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く	51.5%
文の中における主語を捉える	61.8%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5)

課題の見られた問題の概要	結果
漢字の読み	14.86%
資料を関連付けて読む	10.81%
筆者の思いを解釈して文章を考える	40.54%
指示語に指示内容を入れる	54.05%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
関心・意欲・態度を問う問題では正答率が8～9割台と高く、多くの児童が興味・関心をもって学習に取り組んでいることが分かる。また、話す・聞く問題についても正答率が高く、学習の定着が見られた。	正しい漢字を使って、どのような関係で文と文とがつながっているか整理して書く力や、資料から必要な情報を正しく読み取ったり、文章全体から登場人物の発言のつながりなどを正しく読んだりする力がまだ定着しておらず、課題が残った。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

書く力の向上に向けて、短い文章を組み立て、効果的な表現を考えたり、文章を書いたりする機会を設ける。また、読む力の向上に向けて、短い文章からイメージさせたり、優れた表現を紹介したりする機会を増やす。さらに、資料を読み取る力をつけるために、教科書の文章だけでなく、比較する文章をもってきて、似ている所を挙げさせたり、関連付けて考察させたりするなどの手立てを行う。言語理解に向けて、主語と述語の対応、修飾語と被修飾語の関係、指示語に指示内容を入れる等の学習や言葉遊びなどで、語彙を増やす機会を設ける。

●調査結果を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	多くの児童が学習に意欲的に取り組み、自分の思いを発表する経験も積み重ねてきているが、自分が思ったことを文章や言葉で発表することを苦手とする児童がいる。	話型を提示したり、順序立てて発表している児童を紹介したりしながら相手伝わりやすい発表の仕方を身につけさせる。また、国語科を中止に並行読書や読み聞かせを行い、計画的に語彙を広げていく。
2年生	場面の様子を想像し、登場人物の行動を考えたり気持ちを読み取ったりすることが苦手な児童がいる。	登場人物の行動に着目し、会話に注意しながら感想を書くことができるようにする。また、主語・述語や時を表す言葉などを意識して書いたり読んだりさせる。
3年生	文脈に即して正しく読み取ることや接続語などの文法に苦手意識のある児童がいる。文章の組立を考えながら書く力が弱い。	登場人物の言動や、出来事、場面の移り変わり等を考えながら読めるようにする。音読の仕方を工夫する。接続詞を意識させた作文やスピーチを繰り返し行い、知識を定着させる。
4年生	叙述をもとに登場人物の気持ちを読み取ったり、筆者の主張を読み取ったりすることが苦手な児童がいる。	登場人物の気持ちを読み取れるように、中心人物や出来事、気持ちの変化を考えさせる。また、筆者の主張を読み取れるように、文章構成や段落の役割に注目させた読みを意識させる。
5年生	文章構成を考えて書く力が弱い。文と文とのつながりを整理する力も弱い。文章を読み取る際に、筆者の思いを解釈したり必要な情報を取り出したりすることが苦手である。	書く順序が分かるように思考ツールやワークシートなどを使い、考えを可視化する。文章を読み取る際、サイドラインなどを活用して、大切な部分を掴ませるようにする。交流活動の場を設け、多様な考え方が出来るようにする。
6年生	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、自分の考えをまとめることができる。しかし、事実と感想、意見を区別して書くこと、目的に応じて書論理的にまとめることを苦手としている児童が多く見られる。	事実、感想を的確にとらえるために、思考ツールを使い、自分の意見や立場をはっきりさせ、書くようにする。視覚的にも分かりやすいように資料を提示する。論理的思考を文章化するための手立てとして、定型文などの資料提示も常時行っていく。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
言語についての知識、理解、技能の問題では、興味・関心をもち意欲的に取り組む児童とそうでない児童の差が大きかった。書く・読む学習問題でも、同様の傾向が見られた。	基礎基本や既習学習の定着に課題があると思われる。また、日頃より文章を書くことに抵抗がなくなるような柔軟な学習課題を取り入れるなど、引き続き、個の学習状況に応じた指導や興味関心を引き出す授業展開の改善が必要である。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

書く力の向上に向けて、短い文章を、効果的な表現を用いて書く機会を設ける。言語理解に向けて、主語と述語の対応、修飾語と被修飾語の関係、指示語に指示内容を入れる等の学習や言葉遊びなどで、1年生の早い段階から既習の漢字を用いて文章を書くことを習慣付け、語彙を増やす意識を高めていく。また、朝読書の時間、読み聞かせの時間を有効的に活用していく。

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	ひらがな50音は概ね定着しているが、助詞や発音・促音を正しく使って文章を書くことを苦手とする児童がいる。また、音読では、文のまとまりとしてでなく、文節ごとに区切って読んでしまう児童がいる。	視写をしたり、日記を書いたりする経験を繰り返すことで、児童が文章を書くことに慣れ親しめるようにする。また、音読の宿題も毎日出し、文字をまとまりとして捉えられる力を育てる。
2年生	漢字の筆順を正しく書いたり、文章を書く上で漢字を使ったりするのが苦手な児童が多い。	文章を書くときに、習った漢字を使うように意識させたり、新出漢字の指導の際に、短文作りを入れたりする。日記や感想文を書く経験を増やす。
3年生	自分の思いや気持ちを言葉にして伝えることが苦手な児童がいる。また、語彙力が少なく、文章を構成する力が乏しい児童もいる。	発表の場を増やし、言葉を発する機会を増やしていく。語彙力を増やすためにも、読書の習慣を身に付けさせる。思考ツールを活用して考えを整理しながら、自分の考えを文に書く活動を増やしていく。
4年生	自分の考えを文章に表わすことや、丁寧な字を書くこと、正しい書き順で書くことなどが苦手な児童が多い。	基礎基本や既習学習の定着に課題があると思われる。繰り返し漢字の学習に取り組んだり、文章の中で既習の漢字を使ったりするよう指導していく。
5年生	読書好きが多く、読む力や聞く力は身に付いているが、文字を丁寧に書くことや、自分の考えを文章にすることが苦手である。	文字を丁寧に書くことについては、字形を整えて書くことを繰り返し指導していく。思考ツールやワークシートを活用して自分の考えを文章化することを習慣づける。
6年生	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、自分の考えをまとめることができる。しかし、事実と感想、意見を区別して書くことと、目的に応じて書くことは苦手としている児童が多く見られる。	事実、感想を的確にとらえるために、思考ツールを使い、自分の意見や立場をはっきりさせ、書くようにする。視覚的にも分かりやすいように資料を提示する。